



公益財団法人 宮城県対がん協会

ともしび



# TOMOSHIBI

第159号

2024年7月1日

「ともしび」題字は  
(故)黒川利雄博士

## 当協会の 特色

- 高い精密検査受診率と高い早期がん発見率
- 専門医療機関紹介
- 高い信頼性に基づく精度管理
- 一貫したデータ管理



写真：合資会社 中北車体工作所

## CONTENTS

- |   |                    |
|---|--------------------|
| ② 新がん検診センター披露式                                      | ⑨ 新がん検診センターからのお知らせ |
| ③ きぼう18号披露式／征圧スローガン                                 | ⑩ 健康コラム            |
| ④ 黒川利雄がん研究基金  | ⑫ みやぎのがんなんでも相談のご案内 |
| ⑤ 2023年度がん教育事業                                      | ⑬ 新がん検診センター建設募金名簿  |
| ⑥ 日本医療研究開発機構(AMED)による<br>「個別リスクに基づく胃がん検診提供構築に関する研究」 | ⑭ 黒川・賛助会費・篤志名簿     |
|   | ⑮ 継続寄付のお願い         |

早期発見  
早期治療

がん検診は  
定期的に!



ブー子ちゃん がん助くん  
がん征圧イメージキャラクター

## 新がん検診センター披露式

3月27日、がん検診センター新棟完成及び2023年度日本財団助成による医療機器整備事業の完了披露式を開催しました。当日は日本財団の吉倉常務理事様をはじめ、県内外から50名近くの来賓の皆様にご参集いただき、披露式終了後、来賓の皆様にご見学いただきました。

その模様は複数の地元テレビ局のニュース報道で大きく取り上げられ、新しいがん検診センターの整備を広くアピールすることが出来ました。

なお、新しいがん検診センターでの検診は4月5日よりスタートしております。

是非、多くの県民の皆様にご利用いただければと思います。



## センター募金事業

2022年7月1日から2024年3月31日までご協力をいただいた新がん検診センター募金事業は、多くの方より総額51,399,465円のご寄付を賜りました。誠にありがとうございました。将来のセンター建設工事に向け、引き続き募金活動を行ってまいります。今後ともお力添えをよろしくお願いいたします。

## 新胃検診車命名披露式

公益財団法人JKA2023年度補助事業により作製されたデジタル胃検診車「きぼう18号」が、2024年3月に完成いたしました。これに伴い、4月4日に宮城野分室にて命名披露式が執り行われました。

今回はフラットパネル方式撮影装置に加え、新たに音声ガイダンス機能が搭載された最新のデジタル医療システムを導入した検診車となりました。文字、画像、音声によって受診者様へ撮影案内を行うことができる他、英語、中国語、韓国語をはじめとした10か国語の多言語、手話にも対応しており、高水準の胃がん検診が期待できるだけでなく、受診者様の多様性にも対応できるようになりました。

今後も質の高い検診により、県民皆様の健康保持に役立つよう努めてまいります。



## 2024年度「がん征圧スローガン」が決定しました!



がん検診 あなたの暮らしの 習慣に

新潟県支部 高橋 奈津子 さん作



がん検診 持続可能な 健康管理

山梨県支部 伊藤 美穂 さん作

「大丈夫!」受けずに言って「大丈夫?」

～がん検診からはじめよう～

福岡県支部 廣瀬 健太郎 さん作

迷うより 受けてスッキリ がん検診

宮城県支部 杉本 武彦 さん作

※宮城県対がん協会 検診課 杉本武彦さんの作品が優秀賞として入選しました。



# 黒川利雄がん研究基金

## 2024年度研究者決定

「黒川利雄がん研究基金」は、がんの予防及び早期発見・治療に関する開発等に携わる若手研究者に対し研究助成を行うことを目的に平成元年に創設され、今年で35回目となりました。今年1月から3月までの期間で全国に公募をしたところ、9件の応募があり、4月23日に「研究基金」の運営委員会を開催し申請者の研究内容を慎重に審議した結果、2024年度の実行者は下記の4名と決定いたしました。今年度の研究助成額は220万円で第1回から数えると143名の研究者に対して総額9,110万円の研究助成金を贈ったこととなります。

研究助成金の贈呈式は、去る6月3日仙台市内の会場で行われ、当協会の下瀬川徹会長からの挨拶で始まり、運営委員会の正宗淳委員長から選考までの経過報告があり、加藤勝章がん検診センター所長から研究者を紹介いたしました。

続いて下瀬川徹会長より、研究者1人ひとりに研究助成証書と助成金が贈呈され、さらに黒川先生が座右の銘としていた「山上に山あり 山また山」を刻んだ石版が贈られ、最後に研究者を代表して滝川哲也先生より謝辞が述べられました。

## 2024年度「黒川利雄がん研究基金」助成対象研究主題及び研究者一覧

(申請順 敬称略)

研究主題	研究者氏名	所属	交付額
1 細胞外基質が生み出す力学的環境が乳癌細胞にもたらす影響と新規治療標的の探索	田中 美桜 (28歳)	東北大学病院 個別化医療センター	40万円
2 血中・呼気中バイオマーカーを用いた肺癌早期診断体系の構築	滝川 哲也 (41歳)	東北大学病院 消化器内科	90万円
3 微量金属元素の乳癌免疫微小環境への影響の解明	岩渕 英里奈 (37歳)	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻病理検査学分野	40万円
4 尿中バイオマーカーと大腸がん罹患リスクとの関連の検討	小暮 真奈 (38歳)	東北メディカル・メガバンク機構 予防医学・疫学部門	50万円

※年齢、所属は2024年3月31日現在(申請時)



黒川記念室を見学する研究者



贈呈式会場での記念撮影  
後列左より阿部事務局長、正宗委員長、加藤所長、伊藤所長  
前列左より田中先生、小暮先生、下瀬川会長、滝川先生、岩渕先生

# 2023年度がん教育事業終了

当協会では2023年度も宮城県より委託を受け、出前授業及びがん予防講演会を実施いたしました。がん教育事業は、がんの予防、がんという病気そのものに対する理解を深めるとともに、「がんになっても安心して暮らせる社会」を構築するため、がんに関する正しい知識の普及啓発を行うものです。また、近年、若年期女性の子宮頸がんの罹患数増加は顕著であるにもかかわらず、検診受診率は低い状況にあり、対策を講じる必要性・重要性が高いことから、県内の大学等の女子学生等を対象に、がん等に関する正しい知識の普及啓発・がん検診の受診勧奨を行っています。

また、今年度も県内事業所職員の皆様を対象に、がんについての知識とがん治療と仕事の両立支援についての講話をさせていただきました。

大学や専門学校等での講演には、おざわ女性総合クリニック院長の小澤信義先生、中川記念ちか子女性クリニック院長の岡村智佳子先生、スズキ記念病院産婦人科診療科長の志賀尚美先生、当協会細胞診センター所長の伊藤潔先生にお願いしました。また、事業所での講演では、宮城県産業保健総合支援センター講師の先生をお招きし、当協会保健師と一緒に講演いただきました。

この機会に、多くの人々に対してがんに関する正しい知識の普及啓発を行い、大学生等に対しては若年期女性の子宮頸がんの受診率向上に繋がるよう啓発活動に力を入れていきたいと思っております。



小澤 信義 先生



岡村 智佳子 先生



志賀 尚美 先生



伊藤 潔 先生



事業所向けがん教育  
産業保健総合支援センター 赤垣 先生



## 2023年度がん教育事業大学・専門学校開催一覧

学校名	講師	実施日	聴講数
東北福祉大学	おざわ女性総合クリニック 院長 小澤 信義	12/14(木)	58名
仙台白百合女子大学①	スズキ記念病院 産婦人科 診療科長 志賀 尚美	12/18(月)	21名
仙台医療福祉専門学校①	中川記念ちか子女性クリニック 院長 岡村 智佳子	12/20(水)	42名
仙台医療福祉専門学校②	おざわ女性総合クリニック 院長 小澤 信義	12/21(木)	22名
仙台白百合女子大学②	スズキ記念病院 産婦人科 診療科長 志賀 尚美	1/9(火)	10名
仙台白百合女子大学③	宮城県対がん協会 細胞診センター 所長 伊藤 潔	1/15(月)	27名
東北文化学園大学	おざわ女性総合クリニック 院長 小澤 信義	3/28(木)	28名

## 2023年度がん教育事業実施事業所

事業所名	実施日	聴講数
株式会社 関・空間設計	2023年11月20日(月)	24名
(株)日専連ライフサービス	2023年11月30日(木)	15名
(株)ティーピーエスサービス	2024年 1月17日(水)	18名
(株)イーエックスデー	2024年 1月18日(木)	14名
株式会社 プレイン	2024年 1月25日(木)	33名
社会福祉法人 セブチ町社会福祉協議会	2024年 2月 1日(木)	16名
共同紙工(株)	2024年 2月 5日(月)	18名
宮城NOK株式会社 登米工場	2024年 2月 8日(木)	112名
公益財団法人仙台市産業振興事業団	2024年 2月14日(水)	39名
キョーユー 株式会社	2024年 2月15日(木)	29名

# 日本医療研究開発機構 (AMED) による 「個別リスクに基づく胃がん検診 提供構築に関する研究」

## 研究代表者のご挨拶と 研究進捗状況の報告

能登半島の大きな地震で幕があいた本年ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。不幸にして犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、一日も早い復興を祈っております。私も2011年3月の東日本大震災の際、電気、ガス、水道等ライフラインが寸断され不安な日々を送っていたことを思い出し、身につまされているところです。

さて、皆様にご参加いただいている日本医療研究開発機構 (AMED) による本研究は、令和6年度 (2024年度) で9年目を迎えました。ご承知の通り、本研究は、これまで住民の方全員に毎年受診するよう勧めてきた胃がん検診を、胃がんのリスクの高い人はこれまで通り、リスクの低い人は少し間隔をあけて受診するようにして効率化をはかる仕組みを作ろうという目的で着手しました。このリスクを判定する指標がヘリコバクター・ピロリ感染の有無やX線検査や内視鏡検査による画像所見というわけですが、検診受診間隔を決めるためのリスクの「高い」、「低い」の判断をそれらの指標のどこで線引きをするかがわかっていません。そこで、本研究で参加いただいた皆様の健康情報を追跡していくことによってリスクの適正な線引きをしようとしているわけです。今一度本研究の趣旨をご確認のうえ、今後と



宮城県対がん協会  
研究局長 深尾 彰

もご協力のほどお願いいたします。

下に本研究の2023年度までにご参加いただいた方々の人数をお示しします。X線検診の方は2018年度で目標としていた15,000人にほぼ達しましたが、内視鏡検診の方は目標とする12,000人に少し足りないので2024年度に追加募集することになっています。内視鏡検診については多くの地域で参加いただいておりますが、検診が1か所に大勢が集まって実施されるX線検診と違って内視鏡検診の場合はクリニックなどの個別の医療機関で実施されるため、効率が悪いこと、さらにはコロナ感染の影響をまともに受けたことなどの理由で参加数が伸び悩んでいます。

### X線検診群

年度	宮城県	山形県	合計
2017	10,573	—	10,573
2018	2,479	1,133	3,612
計	<b>13,052</b>	<b>1,133</b>	<b>14,185</b>

### 内視鏡検診群

年度	新潟市	鳥取市	米子市	金沢市	前橋市	曲利本荘市	盛岡市	八頭町	世田谷	仙台市	福岡市	いわき市	水戸市	川崎市	井原市	合計
2017	873	277	149			813										2,112
2018	463	143	328	608	573	340										2,455
2019	737	61	114	593	181	211	257									2,154
2020	212	135		227	3	100		46		718	3					1,444
2021		26		149	1	110	88	5		632		106				1,117
2022		49		132	3	75	48		4	279	198	61	320			1,169
2023				131			62		2	244		12		16	85	552
計	<b>2,285</b>	<b>691</b>	<b>591</b>	<b>1,840</b>	<b>761</b>	<b>1,649</b>	<b>455</b>	<b>51</b>	<b>6</b>	<b>1,873</b>	<b>201</b>	<b>179</b>	<b>320</b>	<b>16</b>	<b>85</b>	<b>11,003</b>

## がん検診の受診率について考える

日本のがん対策は、がん対策基本法 (平成18年、2006年) に基づいて国が「がん対策基本計画」を策定し、それに準じて都道府県が「都道府県がん対策基本計画」を策定して実行していくという手順で進められています。国の「がん対策基本計画」は大体5年おきに見直すことになっており、昨年第4期目の改定が発表になりました。言いたいことはたくさんあるんですが、ここではがん検診の受診率について触れたいと思います。これまでの計画では、胃・肺・大腸・乳・子宮頸部の5つのがん検診の受診率は50%を目標としていたのですが、今回からそれを60%に引き上げることとしています。受診率といっても定義はいろいろありますが、ここで使っている受診率は厚生労働省が全国30万世帯の家族構成員を対象として調査した「国民生活基礎調査」によるもので、あくまでサンプル調査に基づく推計値であることをお断りしておきます。国のこの目標に従って各地域で創意工夫して頑張るよというお達しなわけですが、検診を提供する側としてはこの受診率アップは一筋縄ではいきません。早い話、そんな創意工夫で解決するならとっくに100%の大台に乗っているはず。昔から行われてきた創意工夫を挙げてみましょう。

- ① 検診料金の無料化 (地域経済が許せば)
- ② 休日検診・夜間検診 (働き方改革に逆行)
- ③ 広報活動 (チラシ配布、テレビ等マスコミの活用など費用対効果は疑問)
- ④ 講演会 (検診を受ける人しか集まらない)

⑤ コール・リコール (精密検査未受診者に繰り返し受診を勧める手立てのこと。これは一定の効果あり) 等々。これら以外の創意工夫と言われても、なかなか難しくそうです。

このがん受診率を議論するときいつも諸外国との比較が話題になります。下の表を見てください。乳がん検診と子宮がん検診の受診率の日本・イギリス・アメリカの比較です。いずれも日本が40%台なのに、イギリスやアメリカは70%を超えています。この差はどこから来ると感じますか?

### がん検診受診率 日・英・米比較

	乳がん検診受診率	子宮頸がん検診受診率
日本	44.6 (2019)	43.7 (2019)
イギリス	74.2 (2020)	74.0 (2020)
アメリカ	76.5 (2019)	72.6 (2019)

( ) : 報告年 OECD Health Statistics 2020改変

イギリスで受診率が高い理由としては、イギリスでは家庭医制度が充実していて、それぞれの家庭ごとに登録された家庭医が家族全員の健康管理をすることになっており、その一環としてがん検診の必要性を説いたうえで受診を勧めているのです。そのうえ、イギリスのがん検診は、「組織型検診」といって行政側が受診対象名簿をきちんと作成して検診結果を記録して事後評価をしていくシステムで行われていますが、受診対象者でありながら受診しなかったいわゆる未受診者には、電

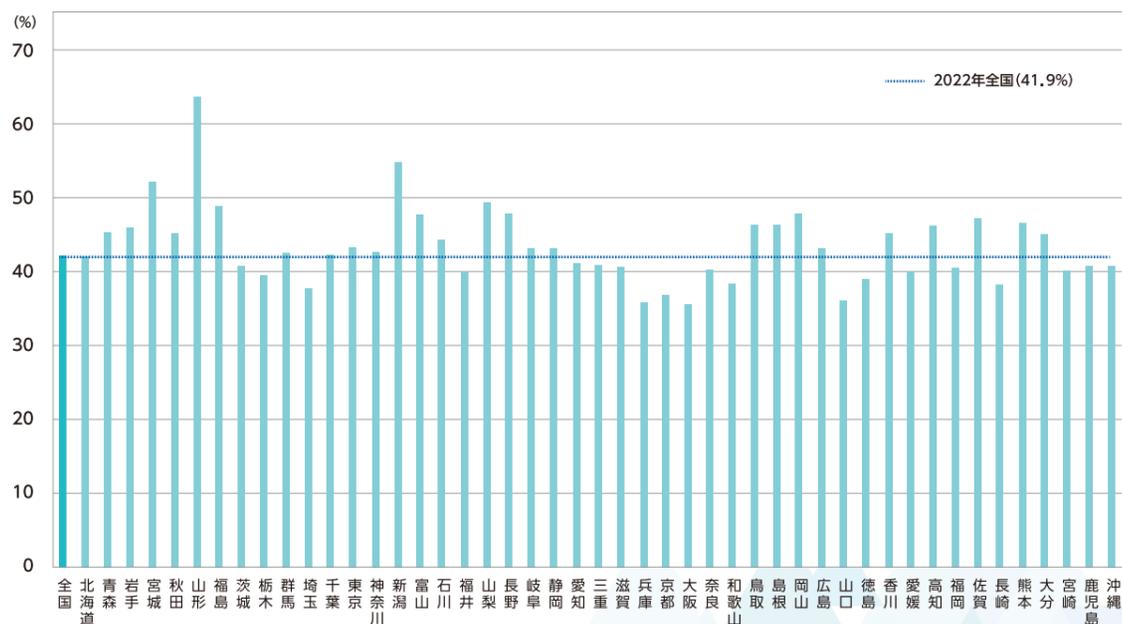
話や郵便、時には専任の指導員による対面で受診を勧め少しでも受診率を上げるよう努力がなされています。日本でも、市町村が実施するがん検診では対象者名簿は作成されますが、勤め先での検診を受診する可能性が高い社会保険加入者は名簿から外されていますし、未受診者に対して受診を勧めるような対策はほとんどとられていないので、イギリスのような「組織型検診」とは言えません。アメリカも同じかというところと事情が違います。まずアメリカでは「組織型検診」はやっていません。アメリカの受診率が高いのは日本のような国民皆保険制度がないためと考えられています。国民皆保険制度は国民のだれもが全国の医療機関で医療を受けられる(フリーアクセス)制度ですが、アメリカでは加入している民間医療保険で決められた医療機関にしか受診できず、医療費の自己負担額もまちまちのため、安心して医療機関を受診する環境にはありません。そこへ行くと公的ながん検診は定額(あるいは無料)で検査が受けられ、進行がんの高額な自己負担を回避するうえでも受診するメリットが大きいのです。「どうせ3割負担で済むし、〇〇生命のがん保険にも入っているから、なんか症状が出たら病院で検査を受ければいいや」といってがん検診を受けないでいる日

本人がいるかもしれませんが、これは国民皆保険制度が悪いのでしょうか。

以上、お国事情を交えてがん検診の受診率のお話をしましたが、日本でも都道府県によってがん検診の受診率が違うことについて触れておきます。下の図は、冒頭で述べた国民生活基礎調査2022年版の都道府県別胃がん検診受診率です。1番左のバーが全国値で、40%でした。第4期がん対策基本計画では60%を目指すということですが、5年後どうなるでしょうか。ひときわ高くそびえているのが山形県で、すでに60%を達成しています。実は何年も前からほかのがん検診(肺、大腸、乳、子宮頸)も山形県は1位を占めています。私は1996年から2016年の20年間山形大学の教授(公衆衛生学)をしておりましたが、山形県1位問題は厚生労働省の審議会を含めいろんな人にその説明を求められました。答えはたいい「不肖ながら私がおるので」とごまかしていたのですが、私がいなくても続いているのでそうではなさそうです。いろいろ調べてみましたが本当のところ理由はわかっていませんが、少なくとも上で述べた家庭医制度、組織型検診、国民皆保険とは関係がなさそうです。そのうち解明できたらご報告します。

胃がん検診受診率(40~69歳 男女計)2022年

国民生活基礎調査より。いずれも過去1年の受診有無。



新がん検診センターで

健診・検診を受けてみませんか?

1F がん・生活習慣病健診

時間帯予約制で半日人間ドックや健康診断が受診でき、土曜日や午後の検診にも対応しております。精密検査に該当した方に対する精度管理にも力を入れております。ご希望に応じたオプションを追加することも可能です。詳細はお問い合わせください。



問い合わせ ドック推進課 ☎022-263-1528

2F 消化器内視鏡検診

上部消化器内視鏡検査が6室、下部消化器内視鏡が2室と、検診専門の医療機関としては国内有数規模となります。胃内視鏡検査は全て経鼻挿入も可能な極細径内視鏡を用い苦痛や咽頭反射の軽減を図ります。また、AI診断装置を導入し、精度の高い検診に努めております。



問い合わせ 業務管理課 ☎022-263-1526

3F 女性のためのがん検診

乳がん・子宮頸がん検診が一度に受診できます。女性専用フロアで、キッズスペース・パウダールームも設けております。子宮がん検診については婦人科の専門医が常勤しており、国内でもトップクラスの精度の高い検査体制が整っております。



問い合わせ 業務管理課 ☎022-263-1526

みちのくプロレスの新崎人生さん・ほやドルの萌江さんに新センターをご紹介いただきました。仙台つーしんにて動画が公開中↓



個人様から事業所様まで幅広くご予約お待ちしております。  
<https://www.miyagi.taigan.or.jp>

# 知っていましたか？ 宮城県はメタボワースト県！

## メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合（令和元年度）



## メタボリックシンドロームとは

内臓脂肪の蓄積（肥満）によって高血圧、高血糖、脂質異常が合併した状態です。そのままにしておくと動脈硬化が進行して、心臓病や脳卒中などを引き起こします。



## メタボ判定をチェック

**内臓脂肪の蓄積**

腹囲

男性 **85cm**以上  
女性 **90cm**以上

+

1つ該当………

2つ以上に該当………

メタボ予備軍

メタボ該当

収縮期血圧 **130mmHg**以上  
拡張期血圧 **85mmHg**以上の  
いずれかまたは両方

空腹時血糖 **110mg/dL**以上

中性脂肪 **150mg/dL**以上、  
HDLコレステロール **40mg/dL**未満の  
いずれかまたは両方

日本肥満症診療ガイドライン2022参照

メタボ予防！今からでも遅くない  
できることから始めて、**健康習慣**を身につけよう！

### バランスのよい食事を

食事は1日3食規則正しくとるのが理想です。野菜や肉、魚などバランスよく食べましょう。

### タバコは吸わない

たばこは生活習慣病だけでなく、がん、認知症、歯周病の原因にもなります。タバコは今すぐやめましょう。

### 飲酒は適量で

1日の飲酒の適量は、男性はビールなら500ml以下、日本酒なら1合以下です。女性や高齢者はその半量です。

### 適度に体を動かす

身体活動は生活習慣病を予防します。宮城県では今より15分(1500歩)多く歩くことを目標にしています。駐車場を遠くに停める、階段を使うなどできることから始めましょう。

### 体重をはかる

毎日体重をはかることで、食べすぎの予防になります。急に体重を減らすとリバウンドの原因になるため、体重の3~5%をゆっくり減らしましょう。

# みやぎのがんなんでも相談

～宮城県がん総合支援センター～

がんに関する心配ごとや悩みに専門の相談員（保健師）が応じます。**相談無料**  
ひとりで悩まず、お話ししてみませんか？



ご本人、ご家族、どなたでもご相談ください。（個人情報厳守します）

## がん相談

**相談方法** 電話、面談（要予約制）、メール、手紙、FAX  
TEL 022-263-1560 FAX 022-263-1548  
メール zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp（ホームページの相談フォームをご利用ください）

**相談受付** 月曜日～金曜日（祝日・休日、年末年始は除く）  
午前9時～午後4時まで

**費用** 相談は無料です。（通話料は相談者の負担となります。）

**住所** 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉5-7-30 宮城県対がん協会内

※必要な場合は適切な窓口を紹介します。※症状や病気に関する診断や治療について判断することはできません。  
※個人情報は厳守いたします。

情報は“力”あなたの療養生活を左右することがあります！

当センターはがん患者さんやご家族に役立つ情報をお伝えします。



ご連絡をお待ちしております。

<https://miyagi-gansupport.com/>



宮城県がん総合支援センター

※宮城県がん総合支援センターは宮城県から委託を受けて宮城県対がん協会内に設置しています。

## ご寄付をいただいた法人・個人

2023年12月1日～2024年5月31日受付分  
順不同・敬称略

### 新がん検診センター建設募金

#### ■特定

カイゲンファーマ株式会社 仙台営業所、  
株式会社ビー・プロ、  
コセキ株式会社、  
株式会社トヨタレンタリース宮城、  
チバ器械株式会社

#### ■法人

株式会社東北共立、  
一般社団法人あかぞ、  
学校法人明和学園いずみ高等支援学校、  
東北発電工業株式会社、  
デュプロ株式会社 仙台営業所、  
アフラック 仙台総合支社

#### ■医師会

##### 角田市医師会

一般社団法人 角田市医師会

##### 気仙沼市医師会

村岡外科クリニック、森産婦人科医院、  
ささはら総合診療科

##### 宮城県医師会

公益社団法人 宮城県医師会

##### 柴田郡医師会

医療法人 社団山家内科小児科医院

##### 登米市医師会

一般社団法人 登米市医師会

##### 尚仁会

千葉守、玉井恵一、菅原忠興、伊藤隆唯、  
田所慶一、甘糟仁、菊地悟、吉田洋一、  
根本勝也、埜誠、高橋成一、上野義之、  
大根田絹子、関川明宏、小野寺博義、大方俊樹、  
山形倫、榛澤清昭、檜尾好徳、廣田衛久、  
貝山仁、小林光樹、渡邊智子、持田淳弘、  
船場泰文、後藤千秋、小林芳江、濱田史朗、  
下田唯清、菊田公一、鈴木裕、鈴木慎二、  
木田真美、猪股優志、熊谷明、平井秋、

平井完史、伊東正一郎、北川靖、山本毅、  
與那原稔、後藤昌司、田村明、石田良子、  
渡邊浩光、妹尾重晴、赤羽武弘、奈良志博、  
穴戸和夫、濱田晋、新妻宏文、松本諒太郎、  
佐藤恒明、黒羽正剛、清野弘明、小林貞夫、  
村上学、川村武、小泉勝、小原範之、  
岩淵利光、林晋太郎、飯島克則、関口淳一、  
濱田史朗、赤井裕輝、尾花伸哉、羽鳥重明、  
伊藤喜和、熊谷裕司、西村敏明、金笑奕、  
佐藤謙、真野浩、相澤宏樹、阿部靖彦、  
佐藤弘房、野口光徳、三浦敦司、大森信弥、  
富永現、菊地孝夫、本郷道夫、宮崎豊、  
狩野敦、大楽紀子、大楽尚弘、千葉正道、  
鍋島立秀、高山敦、石井元康、大矢内幹、  
伊藤薫、鈴木邦彦、枝幸基、桑島一郎、  
江川春延、佐藤玄徳、佐藤修一、宇都宮恭子、  
阿見麗子、三浦達也、齊藤真弘、岡本裕正、  
川原田博章、今谷晃、中山裕一、木村智哉、  
佐藤英幸、白井勇太、小野寺啓、野口哲也、  
佐藤稔、奥野洋、石附壮三、野村暢郎、  
及川登、平井敏、伊藤広通、湯村医院、  
横沢聡、米地真、内緑、有川正志、  
安海清、松田泰徳、早川知彦、平田徹、  
齊藤順子、小池智幸、阿部出、真山享、  
齊藤道也、内海潔、菊地義文、梅村賢、  
岩井涉、高須充子、菊地隆三、北村英武、  
遠藤到、井上淳、大内啓志、大平誠一、  
樋渡信夫、岩崎隆雄、上野孝治、金澤義文

#### ■個人

面川和信、笠羽あさみ、渡部英夫、  
鈴木ゆき子、鎌田宏、正宗淳、市川信昭

#### ■職員

西條靖、及川貴司、布田直樹、青木晶、  
菊地永一郎、渡辺浩之、永窪紀代美、齋藤千晴、  
泉田京子、阿部遥菜、佐藤真由美、岩淵光起、  
杉本武彦、田代孝

黒川・賛助会費・篤志

■黒川利雄がん研究基金

及川貴司、伊藤尚人

■特定

(有)村山自動車、有限会社タニウチ印刷、株式会社イト、同和興業株式会社、コヤマリネン株式会社仙台事業所、株式会社トヨタレンタリース宮城、社の都信用金庫、カガワ印刷株式会社、合資会社中北車体工作所、株式会社仙台銀行、株式会社ビー・プロ、株式会社七十七銀行、七十七リース株式会社、ホロジックジャパン株式会社、株式会社バイタルネット、同和警備株式会社、チバ器械株式会社、イシイ株式会社、カイゲンファーマ株式会社 仙台営業所、オリオシステム株式会社、東邦薬品株式会社、コセキ株式会社、堀井薬品工業株式会社、小林クリエイト株式会社 東北営業部、伏見製薬株式会社 仙台営業所、協業組合仙台清掃公社、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、ライズ株式会社、株式会社シバティンテック

■法人

カメイ物流サービス株式会社、株式会社エコー設備工業、アツミ自動車株式会社、デュプロ株式会社 仙台営業所

■医師会

遠田郡医師会

美里町立南郷病院

塩釜医師会

医療法人卓敬会まえひらクリニック、無量井泰、じょうなんファミリークリニック、今井信行、公益財団法人宮城厚生協会坂総合病院、

医療法人及川内科医院、医療法人社団中正会本間医院、医療法人平樹会平澤内科医院、(医)中山クリニック、笠神ハートクリニック、藤野整形外科、青葉台クリニック、山田内科医院、山田憲一内科医院、遠藤英敬、塩釜医師会消化器部会、多賀城腎・泌尿器クリニック、大井産婦人科医院、塩竈市立病院、赤石隆、医療法人社団杉山内科、さわおとクリニック、医療法人友仁会 松島病院、医療法人社団喜英会加瀬クリニック、渡辺眼科、大井皮フ科泌尿器科

加美郡医師会

大山医院

岩沼市医師会

スマイル結城クリニック

気仙沼市医師会

森産婦人科医院、医療法人尚仁会森田医院、村岡外科クリニック、あいざわクリニック、ささはら総合診療科、医療法人移川哲仁会、大里胃腸科内科婦人科医院、小松クリニック

栗原市医師会

医療法人社団玄成会達内科、栗原市病院事業栗原市立栗駒病院

黒川医師会

公立黒川病院、ちば小児科医院

柴田郡医師会

医療法人社団北社会船岡今野病院、医療法人社団山家内科小児科医院

石巻市医師会

こばやし医院、川村尚道、石塚圭一、久門俊勝、川原田博章、相沢正孝、伊藤内科クリニック、阿部雄悟、荒井啓史、やまもと産婦人科、坂井武昭、石巻診療所、佐藤内科医院、中浦内科医院、佐藤景、高橋邦広、しらゆりクリニック、田中典和、大街道じゅんクリニック、よしろう内科、

二宮健次、古山元之、箕田紳一郎、いしのまき矢吹クリニック

仙台市医師会

五十嵐稔、早坂愛生会病院、佐藤茂、医療法人清和、独立行政法人地域医療機能推進機構仙台南病院、小野寺英朗、今野医院、永沼昭太郎、医療法人社団本島内科胃腸科クリニック、内科・胃腸科小田原クリニック、高橋克、黒澤光樹、医療法人社団宏樹会やたべ内科・訪問診療クリニック、猪岡英二、今井克彦、佐藤英幸、遠藤外科医院、医療法人松田会松田病院、医療法人社団健会荒井駅前のごち内科クリニック、セイントマザークリニック、大山医院

大崎市医師会

医療法人社団古川中央眼科、(医)鎌田内科クリニック、富樫クリニック

桃生郡医師会

舘田要

亘理郡医師会

板橋胃腸科肛門科

■宮婦連  
築館婦人会

■個人

小松亀一、佐々木国彦、伊東正一郎、尾坂芳夫、江刺洋司、鈴木ゆき子、加藤秀則、三塚篤、村上裕重、渡部英夫、曾根サイ

■職員

布田直樹、高橋期子、守谷崇

■篤志寄付金

七ヶ宿町立七ヶ宿中学校、株式会社デンコードー、住友生命保険相互会社 仙台支社、永窪紀代美、高橋期子、仙南地域在宅ホスピスケア連絡会、安藤みち子、センター募金箱

住友生命保険相互会社仙台支社様から  
ご寄付を贈呈していただきました

今回いただいたご寄付は、住友生命保険相互会社様の職員の皆様が保険商品をお客様に1件説明するごとに10円が当協会に寄付されるというユニークな取り組みによるものです。

保険商品の説明の際には、当協会のがん征圧事業についてもお伝えいただき、約3万4千人の方のがん検診受診の重要性などを伝えていただきました。

この度は誠にありがとうございました。



住友生命保険相互会社仙台支社長麻生賢一様(右)  
当協会下瀬川徹会長(左)

## 賛助会員（個人・法人の継続寄付）を募集しております。

当協会では、がんに関する正しい知識の普及啓発、がんの早期発見・早期治療のための調査研究等の事業を行っています。このような事業活動は皆様からの尊い寄付により支えられています。

なお、寄付金については**税制上の優遇措置**を受けることができます。**個人**の方からの寄付金は、所得税において優遇措置対象となり、寄付者の方は確定申告の際に従来の**「所得控除」と「税額控除」のいずれか有利な方を選択**して控除を受けることができます。**法人**の寄付金に対する優遇措置としては、**「特定公益増進法人」**に対する寄付に該当しますので、**法人税法上の規定による限度額が損金**として認められます。



## 寄付金の種類

- **賛助会員寄付** 協会の活動をご支援いただき、毎年ご寄付をしてくださる方
  - 個人会員 1口 1,000円以上の寄付者(個人)
  - 法人会員 1口 10,000円以上の寄付者(団体・法人)
  - 特定維持会員 寄付金の額を定めて「がん征圧運動」に一層の協力支援をいただいている法人
- **篤志寄付** 協会の活動に対する一時的な寄付金
- **黒川基金** 黒川利雄がん研究基金のためと使用を指定した寄付金

**がん征圧に向けた、あたたかいご支援ご協力をお待ちしております。**  
ご寄付のお申込、お問い合わせは下記までお願いいたします。

**公益財団法人 宮城県対がん協会 法人総務課 法人事業係**

〒980-0011 仙台市青葉区上杉5-7-30 TEL 022-263-1637 FAX 022-263-1548  
ホームページアドレス <https://www.miyagi-taigan.or.jp>